

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社 かけはし		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	福岡県福岡市西区愛宕2丁目13-23		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果確定日	平成30年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

理念の1つである「利用者の満足を実現する」の下、煙草を吸いたい、買い物に行きたい、外の大きな風呂に入りたい等、したい事をしてもらえる様に計画している。
訪問診療・訪問看護が行き届いているため、健康管理が充実していて、最後までここで安心して生活できる。また、居宅療養管理指導も受け、より良い介護を受けられる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームかけはし」は、以前産婦人科だった建物を改装して、4F建ての2,3Fに1ユニットずつを配置する単独型の事業所である。地元で産婦人科を40年弱経営していたこともあり、元から地域での馴染みも深く、近隣からの入居者も多い。代表の思いでもある「自由な生活」を体現し、個別ケアには特に力を入れており、思いに応えるためにマンツーマンでの対応をすることも多い。アクセスの良い立地にありながら、閑静でもあり、3Fの中庭や裏庭で緑も楽しまれている。職員の採用も順調に進んでおり、外国籍の職員も違和感なく溶け込んでホスピタリティの高いサービスを提供している。元が病院であったことから、医療機関との連携もよく図られており、最期をここで希望される方に看取りの支援も行っている。地域に根付いた事業所として、地域福祉の支えとなる活躍が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念をカンファレンスの際に唱和し頭に入れ、介護をしている。 入居者は自由に過ごされ、自立につながっている。	「自由に選択し、自由に生きる」という代表の思いが込められた理念が開設当初からあり、毎月のカンファレンス時に唱和もしている。利用者だけでなく、職員に対しても同じ思いであり、自由闊達に意見が出されている。自分で出来る事を探り、出来る事をしてもらい日常生活の中で自立支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が異変に気付いたら駆けつけてくれたり、声をかけてくれる。 クリスマス会など行事の際に応援、参加してくれている。	近隣の集合住宅にも馴染みの民生委員などがおり、何かあった時には教えてくれたり、駆けつけてくれたりもする。公民館や小学校の行事のお誘いを頂いて利用者と一緒に参加もしている。地域ボランティアにも協力してもらって入浴外出に同行してもらっている。音楽ボランティアも以前は定期的に来てもらっていた。	1Fなどの有閑施設を地域や自治体に開放して、サークルや集まりなどに、地域交流室として使ってもらっても良いと考えている。自治会長や地域の関係者を通じてアナウンスして、周知されていってはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつもオープンにして、地域の方からの相談を受けている。 散歩等外出の機会を利用し、挨拶等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近所の民生児童委員、防災担当委員の方と情報を共有している。 医療関係者や入居者の出席の下、お互いに理解を深め向上に努めている。	運営推進会議規則を定め、それに基づいて決まった曜日で2ヶ月ごとに定期的開催している。地域包括、地域住民などに参加してもらい、利用者も月代わりでお願いしている。参加者には順番に発言機会を持ってもらうようにしている。地域情報や介護保険に関しての情報を頂くこともある。	行事や防災訓練など同日開催などを検討することで、日頃の様子を見てもらったり、取り組みを周知したり、会議の新しい在り方を考えられてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の管理下の元、地域包括支援センターのアドバイスを受け、より良いサービスを目指している。	運営推進会議の案内は毎回市役所にもしている。生活保護の方の受け入れもあり、ケースワーカーや担当課とのやりとりは多い。介護申請は窓口へ訪問し、その際に事故報告に関してのお話を伺うこともある。運営推進会議の議事録とカンファレンス記録をまとめて、2ヶ月ごとに郵送報告もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受け、委員会を定期的に開いている。 職員の会議の中でも問題にしている。	車いすからの転倒骨折が続く方に関して、家族との相談の上、一時的な拘束があったが、経過記録、見直しの話し合いをして解消に取り組んだ。委員会も新たに立ち上げた。出入り口の施錠はしていないが、離設リスクの高い方がいる時はユニットの入り口を施錠することもある。徘徊ネットワークの登録もしており、離設事故の際には協力を受けてすぐに対応できた。	今後の離設事故に備えて、センサー設置やモニターなど、未然に防げるための取組が引き続き検討されることにも期待したい。

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修を受け、内部にこれからもそういう事のない様に防止に努めている。 日々の言葉遣いにも注意している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修発表を行い、職員が理解を深めている。 テキストを身近に置き、話し合いの際は問題視している。	以前、成年後見制度を利用されていた方がおり、その際には事業所からの支援も行って対応した。 昨年権利擁護の研修に参加し、レポートとともに内部での伝達も行った。実際の利用も通して、制度に関しての一般的な知識はもたれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は落ち着いて読める様に、持ち帰りを勧め、分かりやすく説明を行っている。 質問も随時丁寧に受けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は同じ場所に設置している。 日頃から話す時間を持ち、コミュニケーションを図っている。 気軽に意見を言ってくれる体制を作り、記録にも残している。	各ユニットの入り口に意見箱を設置しているが、今のところ利用はなかった。家族と疎遠な方も多く、定期的な面会は数名で来られた時に意見を伺っている。来られない方には何かあった際に電話で連絡をする。利用者にも運営推進会議に参加してもらい、意見も出されている。	日頃表面化してこない意見を聞き取る仕組みとして、アンケートの利用や、意見箱の利用を検討されてはどうか。意見用紙を事前配布したり、意見箱の設置を1Fにするなどで活用がさらに進められることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気付きノートを身近に置き、様々な意見を吸い上げている。 会議の中でも必ず意見を求め話し合っている。	毎月事業所全体での会議があり、原則パート職員も含めて全員参加で話し合われている。自由に意見が出せる雰囲気の中で闊達に意見交換がなされ、日頃も気づきノートを使うことで、小さな改善につながっている。職員からの声もあり、処遇改善にも取り組まれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の都合などいつも遠慮なく記入したり、電話等で話せるようになってきている。 一人ひとりの個性を大事にし、就業できる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求められれば話を聴き、その方の人となりを尊重し受け入れを行っている。 勤務も無理なく行えるように配慮している。	40～70歳代までと年代の幅は若干高め、男女比は4:6程度である。外国籍の職員も3名ほどいるが、コミュニケーションをよくとって、フォローもしている。研修の案内もあり、希望したものへの参加もされている。休憩は個別で1時間とり、休憩場所はホールの一隅で遠目に見守りもしながら利用者と一緒に取られている。	

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	多様な人材が集まっている職場であり、お互いを尊重している。 人権に触れるようなことがあったら、すぐに意見が出る。	海外からの人材の受け入れもあり、多様な人材を活用するうえでの人権の意識をもっている。昨年、地域のグループホーム連絡会の主催する外部研修の中で人権に関しても触れられた。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修のお知らせは常に行い呼びかけている。 費用やシフトに負担がない様に配慮している。 研修発表も行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区・早良区のグループホームの情報交換会「いとの会」の会員となり、ネットワーク作りを行い講習会等を通じ、向上を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話や訪問された方の話は親身になって聴き、どうしたら良いか等一緒に考えるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話や不安の原因を確かめ解決策を考え、安心感を持ってもらっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提案できるサービス等の情報をお知らせし、考えてもらうようにしている。 見学を勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の様子を観察し、本当に必要な事は手伝うが、出来る事は手伝ってもらっている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族からの要望をお聞きし、それに沿う様に努めている。 家族にも出来る事はお願いし、良い関係を保つようにしている。		

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の生活状況を教えてもらい、これからの生活に活かしたいと思う。 面会を歓迎している。	家族の面会以外では、宗教関係の知人が来たり、近所の遊びに来たりすることがあった。以前事業所の支援でいきつけの美容室に行くこともあった。家族と疎遠な方も多いが、一時帰宅や外泊に支援してもらう方もいる。個別ケアによって行き慣れたスーパーに行ったり、知人に会いに行くこともあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はできるだけ皆と過ごしてもらい、交流を図れるように声掛けしている。 良い関係が作れるような雰囲気づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や知人と連携を絶やさず、音信を取るよう心がけている。 職員全員が気持ちを表している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望等を尋ね、その方の気持ちを受け止め大事にしている。 良い所が伸ばせるように支援している。	入居時に基本情報とアセスメントを取得し、6ヶ月ごとに、職員とも話し合ったうえで見直しを行っている。途中でも変化があった際には随時追記もしている。家族からは口頭で聞き取ることが多く、身寄りのない方の場合には以前のケアマネや役所などの関係機関からの情報も聞くようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方とかかわって来られた方からできるだけ情報を集め、記録に残しこれからの生活に活かすようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や記録を観たり、一緒に寄り添い、話を聴く様になっている。 安心して暮らせるように支援している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子をモニタリングし、ケアカンファレンスを定期的に行き、医療関係とも連携し、計画の見直しを行っている。	プラン作成は各ユニットの計画作成担当者が受け持ちモニタリングなども行っている。見直し時にはその都度ケアカンファレンスを開き、現場の職員の意見も聞きいれている。医師からの意見も居宅療養指導書のコメントで聞き取っている。ケアプラン目標の実施チェック表があり、職員もプランを元にしたケアの実施に努めている。	担当者会議録の中に、医師や家族からの意見照会の内容を日付とともに記載することで、漏れの無いチームケアの取組に役立ててはどうか。

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの「総合ケア記録」に都度記録を残し、特に申し送りたい事は介護日誌に残すようにしている。 それを読んで、日々介護をしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物等外出の希望があればできるだけ早く個別に対応している。 計画は随時見直している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある浴場に行きたい方には、時間の取れる時にお連れしている。 一緒にコンビニに買い物に行く事もある。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援を受け、かかりつけ医の継続を行っている。 希望があれば主治医の紹介をし、医療を受けている。	元々のかかりつけ医を継続する方もいるが、提携医は訪問診療も出来るため変更される方が多い。他科受診などは家族に支援してもらうが、事業所からの同行や通院介助をすることもある。何か変化があった際は随時報告もしている。2年ほど前から今の提携医に変えたが、親身に診てもらっており喜ばれている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に毎週来てもらい、個別に健康管理をしてもらっている。 全般的にも相談が出来、急を要する時もすぐに対応してくれる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は必要な情報を提供し、お願いしている。退院の際はサマリーをもらい、カンファレンスを行っている。 医療・介護の連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・医師・看護師と情報を共有し、安心して毎日過ごせる様に会議を持っている。 様子の変化を観察し、直ぐに対応できる体制を取っている。	看取りの指針も定めており、新たに2年ほど前から提携した医療機関は看取り対応にも長けており、訪問看護とも連携、協力して対応し、看取りプランも作成している。一昨年は看取りに関する研修に参加し、実際の対応が必要な時には個別の事例検討なども行っている。職員も経験を積んで今後も対応に備えている。	

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、マニュアルも用意し掲示し周知している。 慌てず、医師にいつでも連絡を取れるような体制になっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の際の訓練を定期的に行い、落ちついて行動できるように訓練している。 迅速に行えるように必要な事は掲示し、活用できる準備をしている。	年2回定期的に防災訓練を行い、日中と夜間想定を交互に行い、うち1回は消防署にも立ち会ってもらっている。以前は地域の方や家族の参加もあった。地域の防災担当者がおり、情報などを頂くこともある。備蓄は水のみ準備している。以前ボヤがあった時に警報装置が作動し、かえって迅速な対応が確認できた。消防署もごく近隣にある。	最近では地域の方や家族の参加の呼びかけをされていないので、今後も定期的な地域との協力体制が作られていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由に過ごしてもらえる様な体制を作り、声かけを行っている。 それぞれの気持ちを汲んで接している。	コミュニケーションなどの研修にも参加し、内部での伝達も行っている。まんべんなく、毎日一人一人の利用者に向き合って話しかけるように心がけているが、馴れ馴れしくはならないように、注意もしている。写真利用は施設内の掲示のみに留めている。	写真等を含めた個人情報の利用に関して、今後の個人情報の利用目的の同意などの取得の際に、写真利用に関したのもも入れ込んではどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を聴く機会を作り、できるだけ思いを汲み取っている。 声かけにはすぐに対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等も無理に参加することではなく、又参加されても自由に楽しんでもらえるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服の購入を助け、毎日の整容を一緒にいき満足を得ている。 おしゃれな気持ちも大切にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや季節感などを考えメニューを作り買い物・調理をしている。 手伝ってもらえる事は嬉しいし、要望も聞き提供している。	メニューは基本的に共通だが、ユニットそれぞれで職員が持ち回りで調理している。慣れた職員も多く手際よくこなしている。買い出しと一緒にいたり、下ごしらえをしてもらったりと出来る事を手伝ってもらっている。好みや感想も聞き取って反映もさせている。職員は個別で準備し、別々の時間で食事している。年に1回外食レクを企画している。	誕生会の時や行事の時などで、時には職員も一緒に食卓を囲んで、食事を楽しむような機会も検討されてはどうだろうか。

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調も考慮し、量や形状を考えて提供している。 水分は決まった時間だけでなく随時飲んでもらうようしている。 体重は毎月図り、目安としている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは重要と捉え、一人ひとりに合った方法で介助している。 チェック表を作り丁寧にやっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ紙おむつにならないように自立を促している。 排泄チェック表を活用し、一人ひとりに合った介助を行っている。	各ユニット一人一人に排泄チェック表があり、1枚のシートで、24時間分の排泄情報を共有している。出来る限り自力での排泄が出来るように働きかけている。便秘の際も記録に残して、適切な処置が迅速に行えるような管理もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないような献立を立て運動・マッサージ等を実施している。 便秘の際は医師・看護師にも相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日、入浴できるようなスケジュールになっている。 人によって曜日を決定しているが、その限りではなく対応している。 市営の公衆浴場に希望される方をお連れしている。	2Fはユニットバス、3Fは掘り込み型のステンレス浴槽に木枠をつけた小ぶりの造りである。基本的には一人週2回程度、昼から入浴を提供し、毎日でも希望があれば入ることもできる。拒まれた場合も柔軟に時間帯や曜日を交えながら対応する。お湯も一人一人張替えて清潔を保つ。毎週銭湯に行く方がおり、地域ボランティアの協力を得て連れ出してもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も体調があまり良くない時はお昼寝以外に横になって安静にしてもらっている。 夜はゆっくり眠れるように配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳しい処方箋を個人ごとにファイルし、読みやすくしている。薬の確認や効果も職員全員で検討している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般のできる事を手伝ってもらい、役立つ事の喜びを感じてもらっている。 ギターと踊りのボランティア、行事など日常に変化を持てる様に心掛けている。		

H30.3自己・外部評価表(GHかけはし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食に出かけたり、外出支援・近所の方に行事のボランティア等をお願いしている。家族の参加も呼び掛けている。	以前は散歩で近くの和菓子屋や室見川に行くこともあったが、最近はおく近隣の公園に行っている。視覚障害サポートセンターの支援を受けて定期的に外出援助を受けている方もいる。全体での外出行事では外食レクを企画したが、いまは個別や少人数での支援が多い。中庭や裏庭でちょっとした緑に触れることもできる。ユニットごとの外出チェック表があり、偏りがないようにも働きかけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者が本人の同意の下、お金を預かり一緒に使う事がある。本人が通帳と印鑑を保管している方もおられ、一緒に銀行に行く事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には対応している。手紙も要望があれば行うことができる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を大事に注意を払い、環境を整えるように心がけている。季節を感じられるように窓を開けたりお花を飾ったりしている。	2,3Fにそれぞれ1ユニットが配置されている。造りは若干異なるがコの字型にホールと居室が配置され2Fは中央にスタッフルーム、3Fは中庭があり、日当たりも良い。パネルカーペットが敷き詰められ、最近清掃にも入ってもらった。行事の写真や作品などを飾ったり、絵や書道作品も展示するが、雑然としないよう整理もされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルにそれぞれ違った椅子を準備し居場所を確保し、少し離れた所にソファを設置し、皆とくつろげる場を持っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由に行ってもらい快適に過ごせる様な配置を行っている。その方の状態に応じ、模様替えの支援もしている。	居室によって、洗面台、トイレが設置された部屋もあり、価格帯も変えている。ベッドは希望がなければ事業所のもの(木製ベッドや介護ベッド)を用い、介護ベッドが必要な際には事業所の方で準備している。持ち込みは自由だが、ホールで過ごす方も多いため、あまり過度には持ち込まずシンプルにされており、病室然とした雰囲気は残されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からリビングの動線を考え、トイレや洗面所の利用状況を把握し、部屋を選んでもらっている。全体の家具の配置も安全と居心地を考慮して行っている。		